

広濟寺寺報

発行 浄土真宗本願寺派 福田山 廣濟寺

〒 933-0344 富山県高岡市笹川98

TEL(FAX) 0766-31-0096

E-Mail info@kosaiji.net

ホームページ

http://kosaiji.net/

法座のご案内

御正忌報恩講

一月十五日(日) 午後二時より
十六日(月) 午前九時半・午後二時より

※ お勤め・法話共に、御堂ではなく、
ストロブで暖かくした広間にて行います

今号の法語

冥土の旅への一里塚
めでたくもあり
めでたくもなし

一休宗純そうじゆん



門松は

今号の内容

- ・仏事のQ&A 〱御文章について
- ・伝灯奉告法要団体参拝募集中!
- ・本山懇志にご協力お願いします
- ・千夏のきときと日記



今回はアニメでもお馴染み、一休さんが詠んだといわれる歌にしました。一休さんといえば禅宗のお坊さんですが、数々の奇抜な行動でも有名です。

お正月になると人々は様々に新年を祝います。それを見た一休さんは、竹の棒に骸骨をぶら下げ、「ご用心、ご用心」と京の町を練り歩いたのだそうです。

新年を迎えるということは年齢を重ねてまた「死」に近づくということ、その意味では門松はまさに「死」までの標識のようなもの。新年だからと浮かれていないで、「死」へ真つしぐらの自らの命の不思議さに気づいてくださいよと一休さんは戒めておられるのでしよう。

「死」の反対が今の「生」です。たくさん命に支えられ、それこそ無数のご縁によっていただいている今の「生」の不思議さにこそ、新たな年の始めには、真摯に手を合わせたいものです。

仏事の疑問 Q & A

質問 御文章って何ですか？

お参りの最後、それまで仏さまに向かつて座っていたお坊さんが、今度は反対に皆さんの方に向き直って何かを読み始める……っていうことはありませんか？それはきつと、「御文章（御文）」の拝読です。月参りやご法事はもちろん、お通夜やご法座のご縁などに拝読されています。

どうして「御文章」の拝読は、仏さまではなくお参りする人たちに向いて行われているので



実は「御文章」というのは、本願寺第八代門主である蓮如上人が私たち門信徒に向けてお書きになった「お手紙」なんです。蓮如上人は、「お手紙」で親鸞聖人の教えをわかりやすく説き、全国のご門徒に布教をしていかれたのでした。



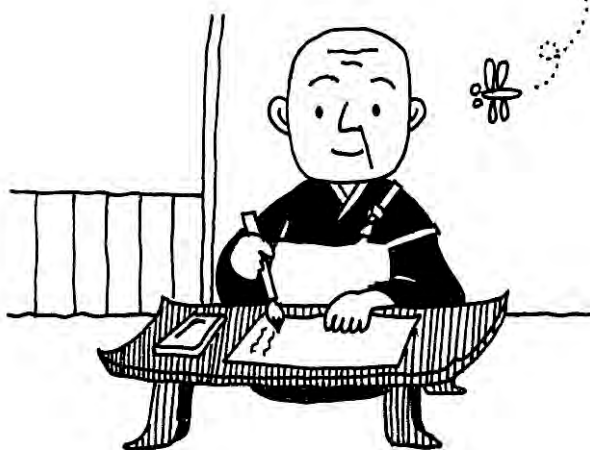
「御文章」の数は二百数十通にも及びます。それを、第九代実如上人のもとで、五帖（五冊）八十通に抽出・整理されました。日付の明らかかなものを第一帖目から第四帖目、日付が不明なものについては第五帖目に収めら

れました。私たちに馴染み深い「聖人一流章」・「末代無智章」・「白骨章」は全てこの第五帖目に入っています。そして「御文章」は「正信偈」と同様に開版（印刷）され、大きく広まっていったのでした。ところで、御文章の最後には必ず「あなかしこく、あなかしこく」と結ばれています。長い御文章などでは、「あー、あー、あー」とやつと終わつたところで一息つけるところで「あ（笑）あの言葉は書状などの文末に用いる言葉で、「あ

あ、もつたない。ああ、恐れ多い」という意味になります。現代でも女性は手紙の最後に「かしこ」と書きますよね。その意味では、「謹んで申し上げます」という意味にもなるのだそうです。

「御文章」には、浄土真宗の肝要がしっかりと説かれています。ですから、み教えの要を確認させていただくために、終わりに「御文章」を拝読させていただくのです。

御文章の拝読中は、正座の姿勢で、頭を少し下げて拝聴するのが習わしです。内容などについても、お参りの際にはどんどん質問してくださいね！



伝灯奉告法要団体参拝募集中！

来年四月十三日(木)～十四日(金)

いよいよ四月の京都参拝旅行が近づいて参りました。ご

門主のお代替わりをご縁とした団体参拝です。桜舞う季節の京都は、想像するだけでも趣きがありそうですね♪

この参拝旅行では、法名をいただく帰敬式(おかみそり)も受け付けています。本願寺での受式は、きっと一生の思い出になるのではないでしょう

本山懇志にご協力お願い致します

今回の「伝灯奉告法要」を含めた本願寺教団の長期計画に基づき、教団から広濟寺門

信徒へ懇志進納依頼がありました。

広濟寺護持委員会等で審議した結果、ご門徒の皆さま

か。

また、親鸞聖人の墓所である大谷本廟への納骨(分骨)も行います。親鸞聖人と共に、たくさんの先人たちが納骨されている場所です。亡き方々の信仰への思いに向き合わせていただきますよう。

お問い合わせは、お寺まで。ご参加何卒宜しくお願い致します。

に懇志のご協力をお願いすることになりました。

皆さまにおかれましては大変ご苦勞の多い時節ではありますが、何卒事情ご賢察の上、ご協力下さいますよう宜しくお願い申し上げます。

千夏のきとぎとぎと日記

先日の報恩講の際には、たくさんのご参拝そしてご協力を賜り、大変感謝しております。どうもありがとうございました。

今年も地元の小学生たちがお参りする子ども報恩講が

初日の夕方から夜にかけて勤まりました。みんなで仏さまに献灯をした後、讚仏偈・重誓偈をお勤めし、婦人会の方が用意してくださったお齋

(食事)をいただきました。お齋に使うてある食材をみんながクイズしながら話は弾みません。お腹いっぱいになった後は、なんと肝試しをすることになりました。

実は肝試しはとても苦手な私。みんなを送り出し自分は留守番と勝手に決めていたの



ですが、結局女の子と三人で行くことになりました。何かあったら「南無阿弥陀仏」と称えるよう笑って送り出す若院を横目に出発しました。

「南無阿弥陀仏」は「必ず救う、我にまかせよ」との阿弥陀さまのよび声であるということを胸に刻み、私たち三人は手に汗を握りながら暗闇の墓場を進んで行きます。何とかやつとの思いでお御堂に戻ってきたときの安堵感と達成感はこの上ないものでした。

いつも私たちをよび続けられる阿弥陀さま。阿弥陀さまが寄り添っておられることを改めて気づかされた今回の子ども報恩講でした。

お知らせ

二〇一六年

除夜の鐘

十二月三十一日(土)

午後十一時四十五分より

二〇一七年

元旦会

一月一日(日)

午前五時より

御正忌報恩講

一月十五日(日)

午後二時より

十六日(月)

午前九時半より

午後二時より

御講師

砺波組 明覚寺

林 要昭 師

除夜の鐘

12月31日(土)

午後11時45分～0時45分頃

※撞いている間も出入り自由です。
いつでもお越しください。
本堂におられる阿弥陀様にもお参りしましょう。



広濟寺仏教婦人会
毎月第四土曜日
午後七時半より

※一月・二月は休会します

※月参りについて

一月一日・二日・三日の三

日間はお休みさせていただきます
ます(祥月命日は除く)。



編集後記

先日の報恩講直前、お寺はパニックになりました。なぜならお御堂にネコちゃんが侵入したからです。突如現れた猫に婦人会の方々も大騒ぎ。たくさんの方々に猫もビックリしたようで、お御堂内を所狭しと駆け回りました。結局二日間も猫はお御堂に隠れ続け、ようやく帰っていききました。

皆さんの家にも猫は来ますか？最近では戸を開けっ放しにしないよう注意しています。ですが夏が来れば戸を締め切ったお寺にするわけにもいかず・・・どうすればいいか悩み中です。

とりあえず、まずは猫と仲良くなることから始めてみます。猫が得意な方、上手なあやし方などまた教えてください！

